

講演会

# 縄文の顔を読み解く

縄文土器の表にも裏にも顔？

土器の顔 縄文の顔 当時の芸術を読み解く

日時：2026年3月14日(土) 13時～17時

会場：サニープレイス座間多目的室  
(座間市緑ヶ丘一丁目2番1号)

予約不要 当日先着150名  
参加費無料(資料代別途必要)

主催：神奈川県考古学会、座間市教育委員会

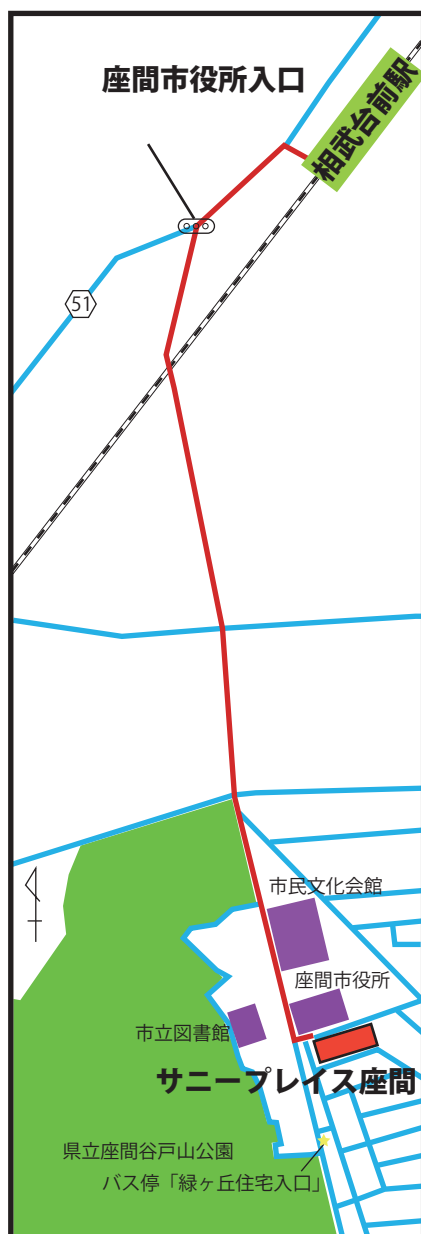
お問合せ先：神奈川県考古学会メールアドレス [soumu@koukokanagawa.com](mailto:soumu@koukokanagawa.com)

座間市教育委員会生涯学習課 Tel:046-252-8431 ※当日電話はつながりません

## タイムテーブル

- 12:30 開場
- 13:00 開演・開催あいさつ
- 13:05 趣旨説明
- 13:10～13:40 報告 佐柄 雄斗（座間市教育委員会）  
「座間市蟹ヶ沢遺跡出土の表裏型顔面把手について  
～発見から調査・活用まで～」
- 13:40～14:40 講演① 設楽 博己氏  
（東京大学、大学院人文社会系研究科（文学部）名誉教授）  
「縄文時代の顔の表現に見る精神文化」
- 14:40～14:50 休憩
- 14:50～15:50 講演② 中村 耕作氏  
（国立歴史民俗博物館研究部考古研究系准教授）  
「縄文時代の顔表現遺物の使用を考える」
- 15:50～16:50 講演③ 川畑 秀明氏  
（慶應義塾大学文学部人文社会学科人間関係系教授）  
「顔の造形表現は何を意味してきたのか  
—心理学的に考古資料と古代芸術を読み解く—」
- 16:50 閉会あいさつ

※各講演テーマは仮のため、当日若干の変更の可能性があります。



オモテ



ウラ

## 表裏型顔面把手土器 愛称「ザマロン」



オモテ側ナナメ

座間市蟹ヶ沢遺跡で発見された表裏両面に顔が描かれている「表裏型顔面把手土器」をご紹介しますとともに、土偶などにみられる「顔」の表現から、縄文時代の精神文化を探ります。

アクセス：小田急小田原線「相武台前」駅より徒歩約20分  
最寄りバス停「緑ヶ丘住宅入口」より徒歩約2分